

白銅株式会社(7637)

2024年3月期第2四半期 決算説明資料

2023年11月9日

目次

1. 2024年3月期第2四半期 決算内容 P 2
2. 2024年3月期 業績予想 P18
3. 中期経営計画達成に向けた取り組み P22

2024年3月期第2四半期 決算内容

決算ハイライト

売上高

28,709百万円
(前年同四半期比▲9.6%)

売上総利益

4,561百万円
(前年同四半期比▲15.6%)

経常利益

1,419百万円
(前年同四半期比▲39.8%)

2024年3月期第2四半期サマリ

売上高

- ・半導体製造装置業界の停滞が継続し売上高が減少。前年同四半期比△9.6%の28,709百万円。
- ・当連結会計年度より北米売上高2,321百万円が追加され、海外セグメントの売上高は前年同四半期比で2,123百万円増加。

売上総利益

- ・売上高減少による減益に加え、棚卸資産影響額差益が前年同四半期比で355百万円減少した影響などにより、前年同四半期比△15.6%の4,561百万円。

経常利益

- ・受取配当金や為替差益などの営業外収益の計上があったものの、運賃や人件費等の各種コスト上昇の影響が大きく、前年同四半期比△39.8%の1,419百万円。

連結損益計算書（PL）サマリ

- 売上高は、半導体製造装置業界の停滞継続による販売重量減少の影響が大きく、前年同四半期比△3,066百万円の減収。
- 経常利益は、各種コストの増加や棚卸資産影響額の差益減少により、前年同四半期比△940百万円の減益。

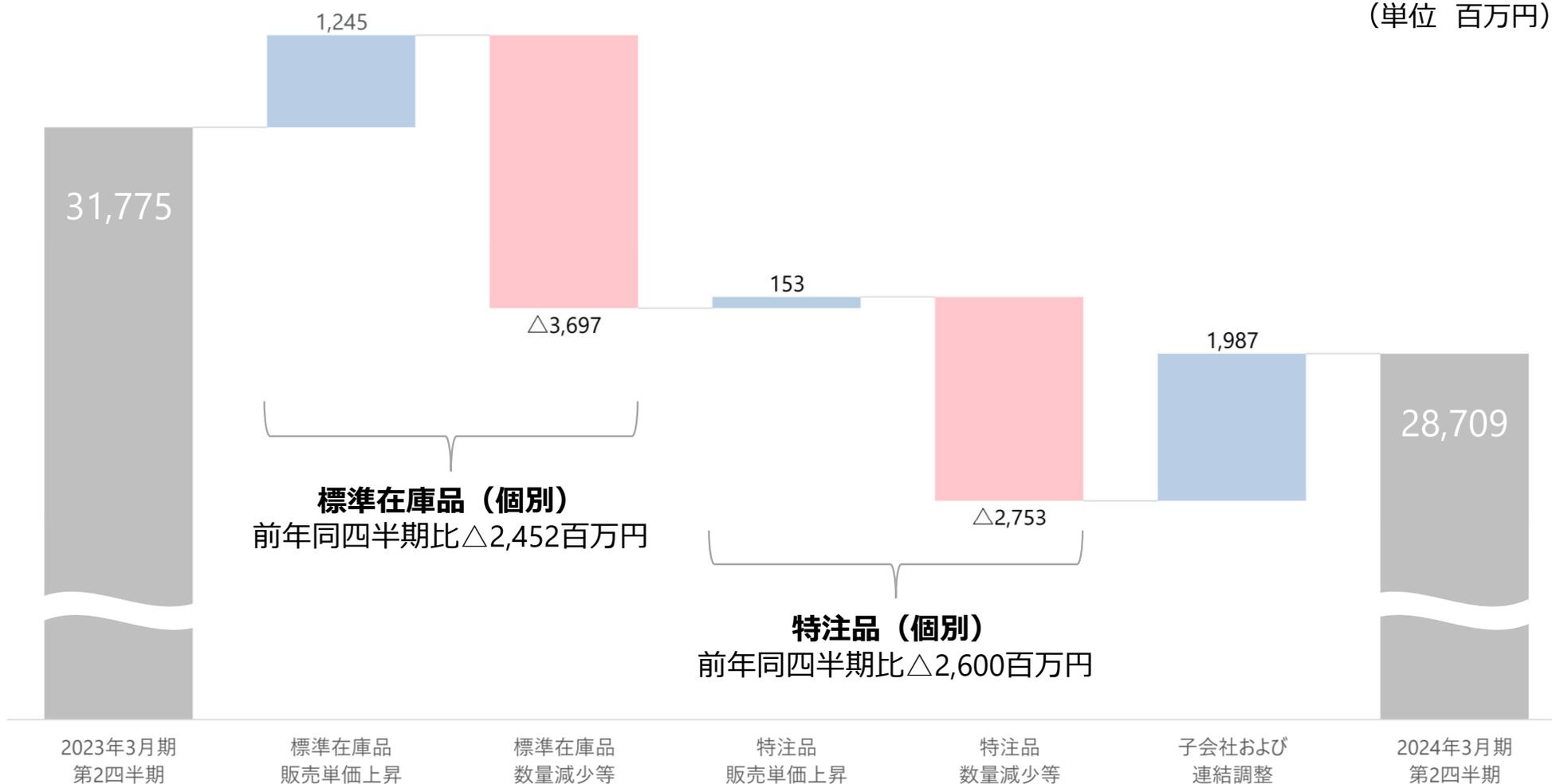
単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	売上高 比率	2024年3月期 第2四半期	売上高 比率	増減率	増減額
売上高	31,775	-	28,709	-	△9.6%	△3,066
標準在庫品	19,245	60.6%	17,121	59.6%	△11.0%	△2,124
特注品	12,529	39.4%	11,587	40.4%	△7.5%	△942
売上総利益	5,402	17.0%	4,561	15.9%	△15.6%	△841
営業利益	2,221	7.0%	1,220	4.3%	△45.1%	△1,001
経常利益	2,359	7.4%	1,419	4.9%	△39.8%	△940
棚卸資産影響額 (△は損)	371	1.2%	16	0.1%	△95.6%	△355
為替差損益 (△は損)	44	0.1%	49	0.2%	11.1%	4
経常利益 (棚卸資産・為替影響を除く)	1,944	6.1%	1,354	4.7%	△30.3%	△590
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,643	5.2%	985	3.4%	△40.1%	△658

売上高の前年同四半期比差異要因

標準在庫品・特注品ともに販売単価が上昇するも、販売数量減少による売上高減収の影響が大きく、前年同四半期比3,066百万円の減収。

(単位 百万円)

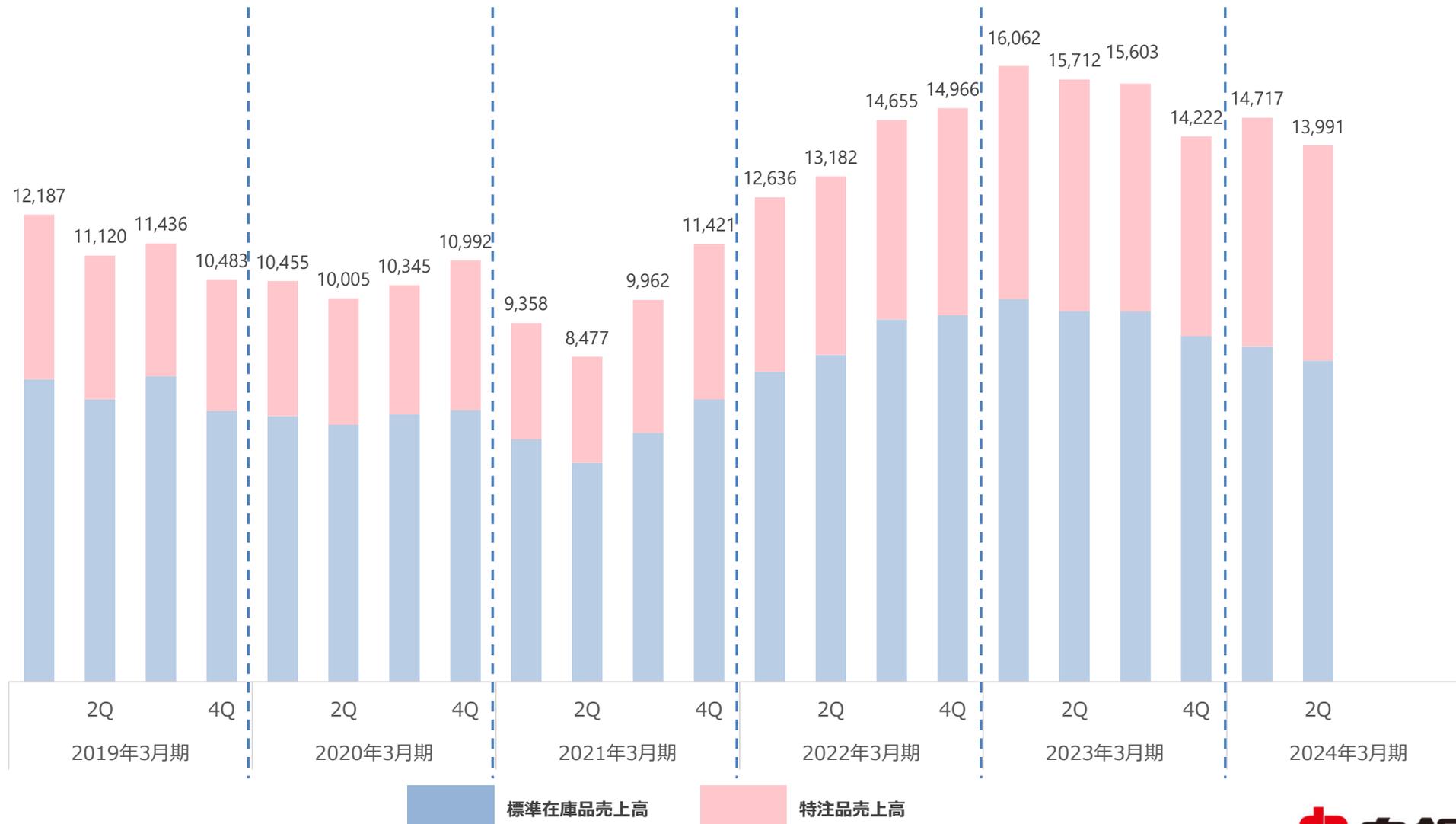


前年同四半期比 白銅個別標準在庫品 販売重量：△19% 販売単価：+8%

売上高の四半期毎推移

当連結会計年度より北米売上高が加わったものの、半導体製造装置業界向けの販売減少を主因とし、前連結会計年度1Qをピークに直近の売上高は減少傾向。

(単位 百万円)



品種別売上高

- 伸銅およびステンレスにおいて、前年2Q期間比で売上高が増加。
- 半導体製造装置業界向けの主力商品であるアルミニウムの売上高が、業界の停滞継続により18.6%の減収となっており、連結売上高全体では11.0%の減収。

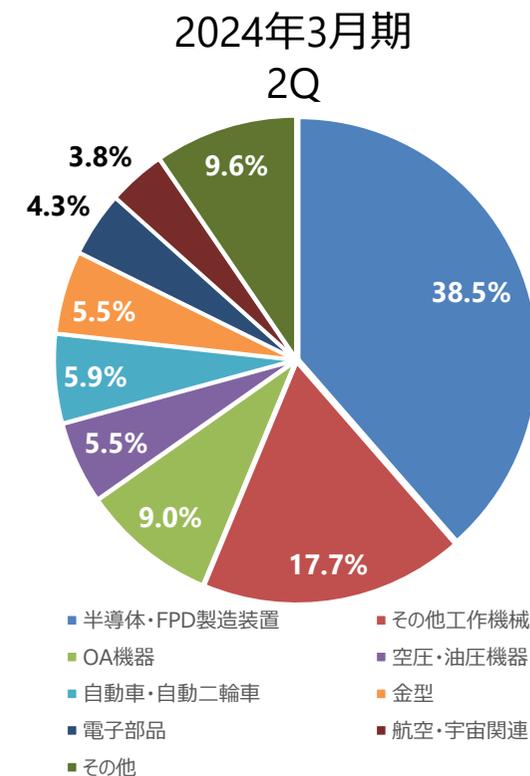
単位：百万円

	2023年 3月期				2024年 3月期		前年 2Q期間比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
連結売上高	16,062	15,712	15,603	14,222	14,717	13,991	△11.0%
アルミニウム	10,694	10,249	10,076	8,800	9,060	8,339	△18.6%
伸銅	2,106	2,010	2,134	2,248	2,138	2,024	0.7%
ステンレス	2,565	2,607	2,632	2,414	2,830	2,971	14.0%
その他	696	844	761	759	687	655	△22.4%

業界別売上高構成比率（国内）

- 半導体・FPD製造装置向けの売上高構成比率が前年2Q期間比で大きく減少。
- 自動車（自動二輪）業界と航空・宇宙関連業界は、売上高構成比率および売上高が、前年2Q期間比で増加。

	2023年3月期				2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
半導体・FPD製造装置	47.2%	45.0%	43.0%	37.5%	39.3%	38.5%
その他工作機械	15.0%	15.4%	15.5%	17.3%	17.7%	17.7%
OA機器	8.6%	7.8%	8.6%	9.9%	8.9%	9.0%
空圧・油圧機器	6.5%	6.9%	7.8%	7.4%	7.1%	5.5%
自動車（自動二輪）	4.3%	4.9%	4.9%	4.9%	4.7%	5.9%
金型	4.1%	4.7%	5.2%	5.6%	4.8%	5.5%
電子部品	3.7%	4.1%	4.0%	4.3%	4.1%	4.3%
航空・宇宙関連	3.1%	2.9%	3.1%	3.7%	4.4%	3.8%
その他	7.6%	8.3%	7.8%	9.3%	9.0%	9.6%



セグメント別業績

- 2023年3月に取得したWest Coast Aluminum & Stainless, LLCの売上高を北米に計上しており、海外売上高の増加に寄与。買収関連費用等により営業損失を計上も、今後回復する見込。円建親子間借入金の為替差益62百万円の発生などにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は14百万円となった。
- 中国では、内需向け・外需向けともに需要が低迷し、2百万円の経常損失となった。

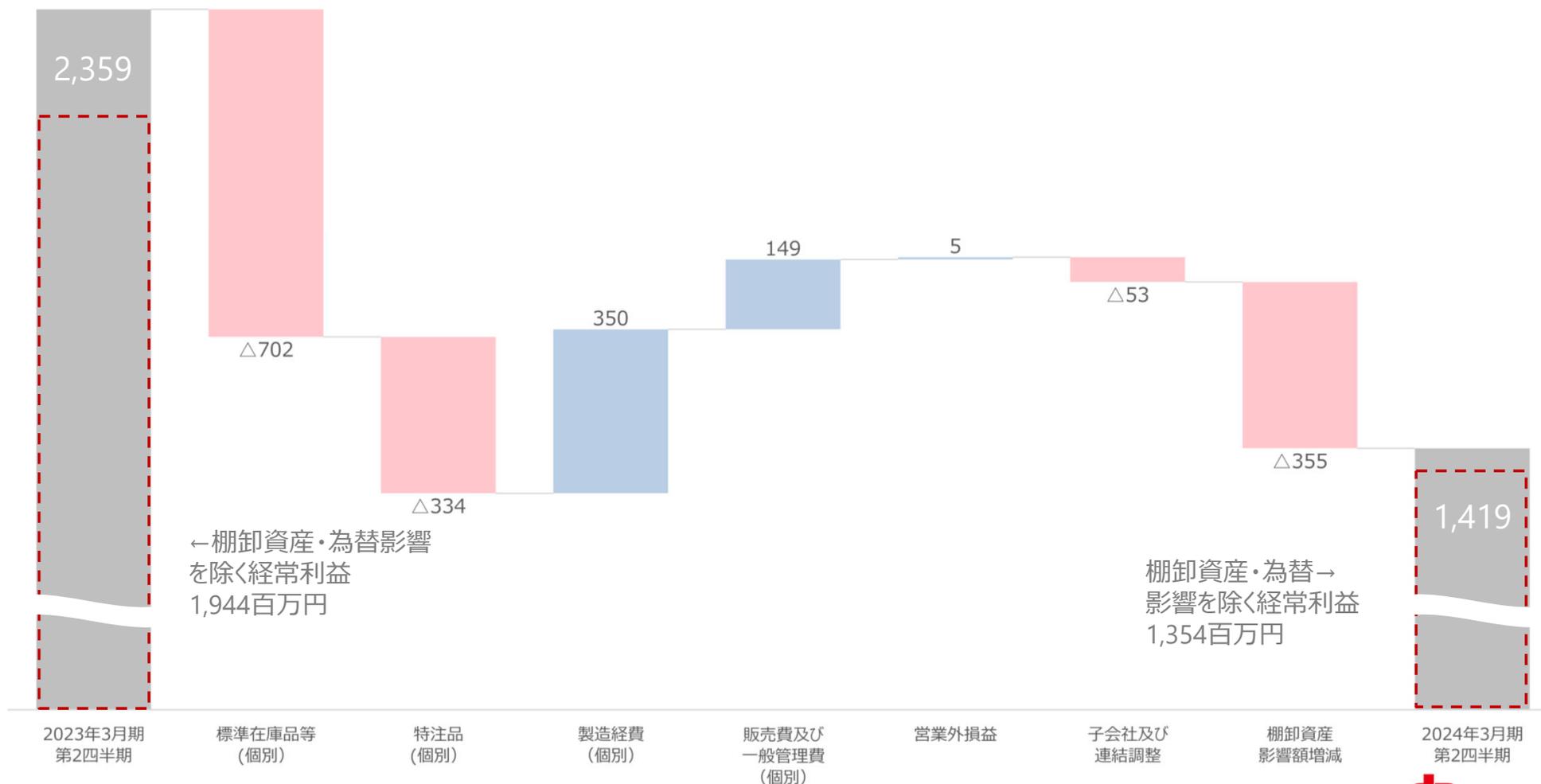
単位：百万円

	2023年 3月期第2四半期				2024年 3月期第2四半期			
	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益 又は 四半期純損失	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益 又は 四半期純損失
日本	30,305	2,145	2,267	1,570	25,115	1,211	1,343	908
北米	-	-	-	-	2,321	△54	△1	14
中国	876	10	26	19	614	△17	△2	△1
その他	593	65	65	52	658	80	80	64

経常利益の前年同四半期比差異要因

- 標準在庫品・特注品ともに販売重量の落ち込みによる影響で大きく減益となった。
- 運賃や電気料金をはじめとする販売重量あたりの各種コストの上昇や、棚卸資産影響額の差益減少などにより、前年同四半期比940百万円の減益。

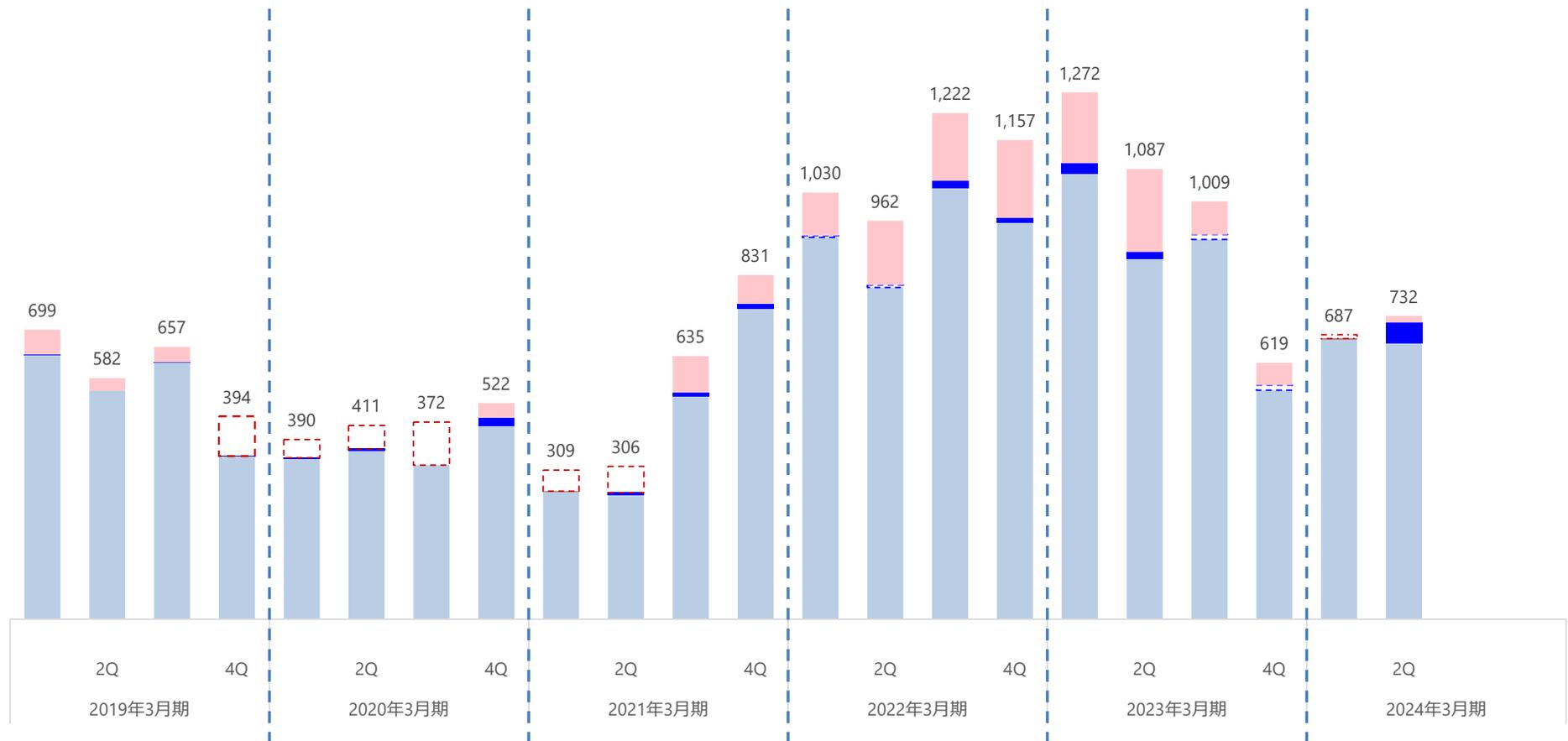
(単位 百万円)



経常利益の四半期毎推移

- 半導体製造装置業界の停滞に伴う販売重量減少により、前年2Q期間比で355百万円の減益。
- 棚卸資産影響額の差益や為替差益が発生したことにより、1Q対比では45百万円の増益。

単位：百万円



貸借対照表 (BS)

- 前期に積上げた在庫の圧縮が進み、2023年3月末から棚卸資産が706百万円減少。
- 設備投資や法人税等の支払いや、配当金支払により現金及び預金が1,314百万円減少。

単位：百万円

資産の部	2023年3月末	構成比率	2023年9月末	構成比率	増減
流動資産	33,829	78.4%	31,220	76.4%	△2,609
現金及び預金	6,038	14.0%	4,724	11.6%	△1,314
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,835	39.0%	16,362	40.1%	△473
棚卸資産	10,631	24.6%	9,925	24.3%	△706
その他流動資産	324	0.8%	208	0.5%	△115
固定資産	9,319	21.6%	9,622	23.6%	+302
有形固定資産	6,250	14.5%	6,362	15.6%	+112
無形固定資産	1,413	3.3%	1,476	3.6%	+62
投資その他の資産	1,655	3.8%	1,783	4.4%	+127
資産合計	43,149	100.0%	40,842	100.0%	△2,307
負債及び純資産の部	2023年3月末	構成比率	2023年9月末	構成比率	増減
流動負債	21,768	50.4%	18,809	46.1%	△2,958
支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	19,020	44.1%	16,375	40.1%	△2,645
未払金・未払費用	860	2.0%	753	1.8%	△106
未払法人税等	579	1.3%	498	1.2%	△80
その他流動負債	1,308	3.0%	1,181	2.9%	△126
固定負債	151	0.4%	150	0.4%	△1
負債合計	21,920	50.8%	18,959	46.4%	△2,960
純資産	21,229	49.2%	21,882	53.6%	+653
負債純資産合計	43,149	100.0%	40,842	100.0%	△2,307

流動資産△2,609百万円

- WCAS社持分取得、配当金増加による現預金減少
- 戦略的に積上げた在庫の販売推進による棚卸資産減少

固定資産+302百万円

- 機械装置購入に伴う有形固定資産増加
- ベトナム関連会社Oristar Corporationの株式配当金による株式取得など、有価証券増加に伴う投資その他の資産増加

流動負債△2,958百万円

- 売上高減少に伴う在庫調整による支払手形及び買掛金の減少

固定負債△1百万円

純資産+653百万円

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産減少があった一方、売上高減少に伴う仕入債務減少等により、+119百万円となった。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、国内における設備投資・IT投資などを実施したことにより、△623百万円となった。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払、および、米国グループ会社の長期借入金返済による支出369百万円等が発生したことにより、△873百万円となった。

(単位：百万円)

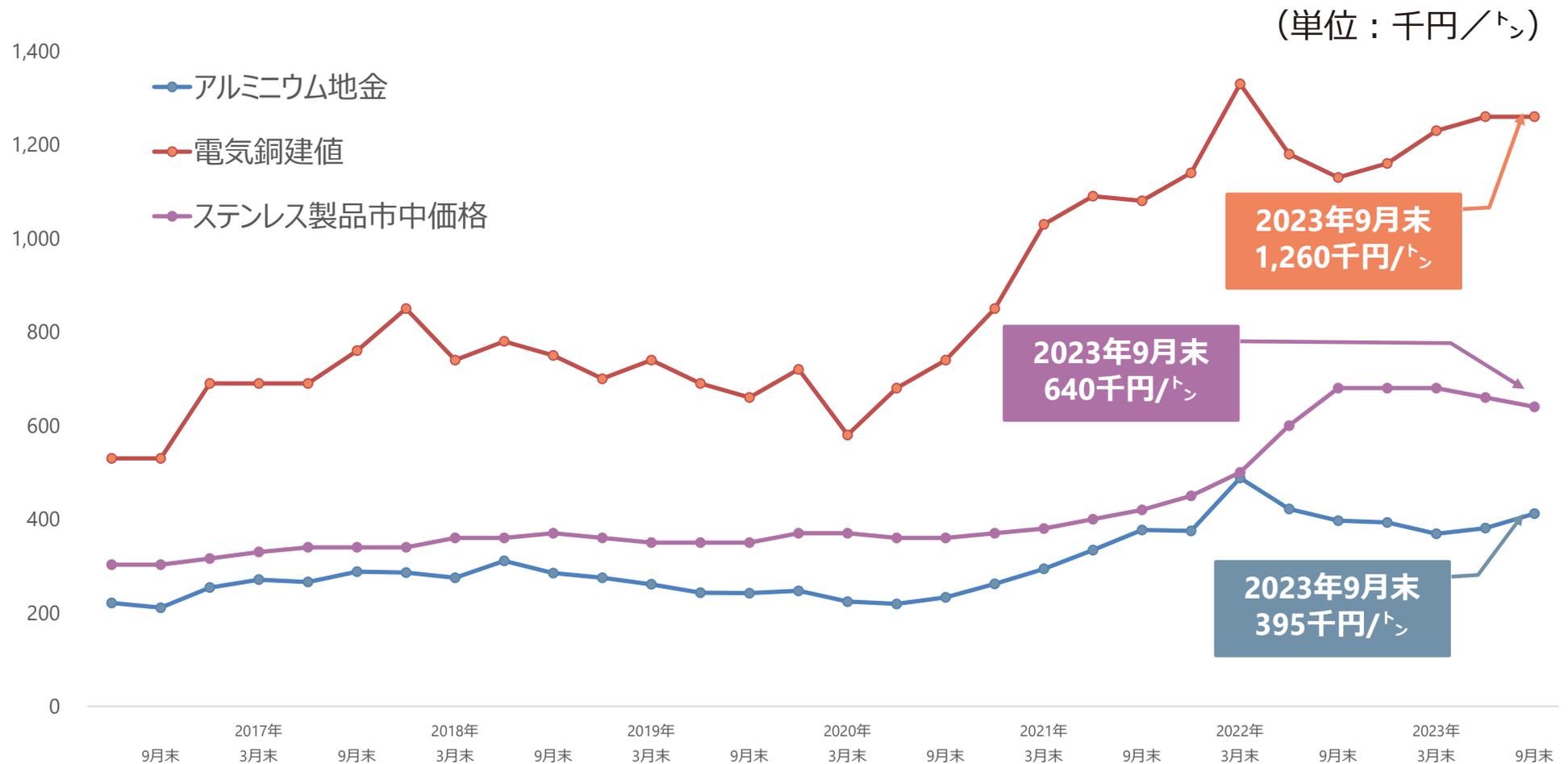
	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	211	119
投資活動による キャッシュ・フロー	△290	△623
財務活動による キャッシュ・フロー	△759	△873
現金及び現金同等物に係る 換算差額	46	63
現金及び現金同等物の四半 期末残高	7,883	4,724

<主な内訳>

- ①営業活動によるキャッシュ・フロー +119百万円
- ・税金等調整前当期純利益 : +1,419百万円
 - ・減価償却費 : +485百万円
 - ・のれん償却 : +20百万円
 - ・売上債権の増減額 (△は増加) : +549百万円
 - ・棚卸資産の増減額 (△は増加) : +796百万円
 - ・仕入債務の増減額 (△は減少) : △2,720百万円
 - ・法人税等の支払額 : △525百万円
- ②投資活動によるキャッシュ・フロー △623百万円
- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △486百万円
 - ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △89百万円
 - ・投資有価証券の取得に伴う支出 : △52百万円
- ※内、Oristar Corporationの株式配当金による保有株式の増加45百万円
- ③財務活動によるキャッシュ・フロー △873百万円
- ・長期借入金の返済による支出 : △369百万円
 - ・配当金支払額 : △576百万円

事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

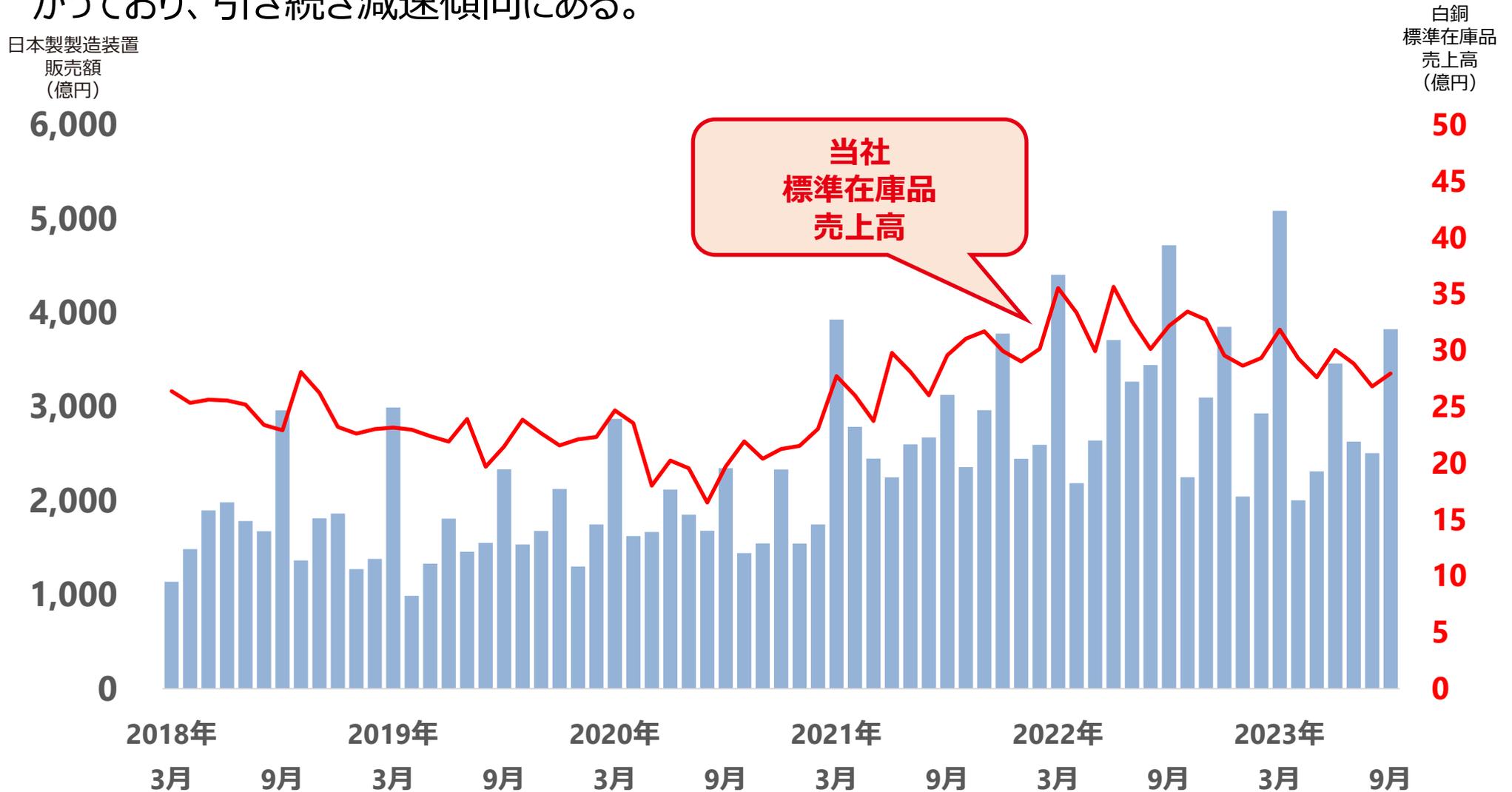
アルミニウムの原材料価格は2022年3月以降下落傾向であったが、直近は回復傾向にある。



電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
 アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

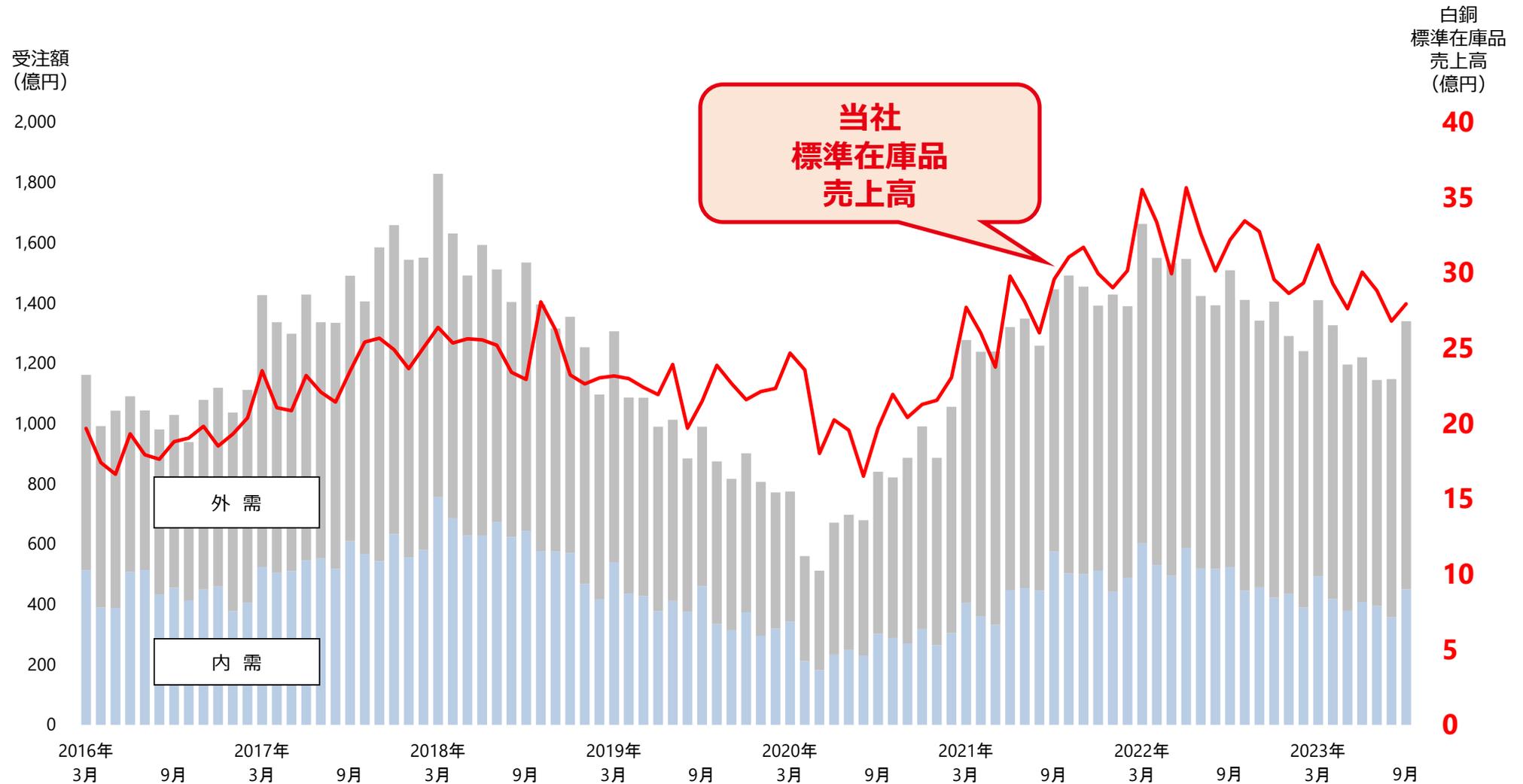
長期的にはIoTやDX、AI、電気自動車の推進などによる需要拡大が予想されているものの、半導体メーカーの在庫調整、生産調整による設備投資計画の見直しの動きが広がっており、引き続き減速傾向にある。



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

事業環境 (3) 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

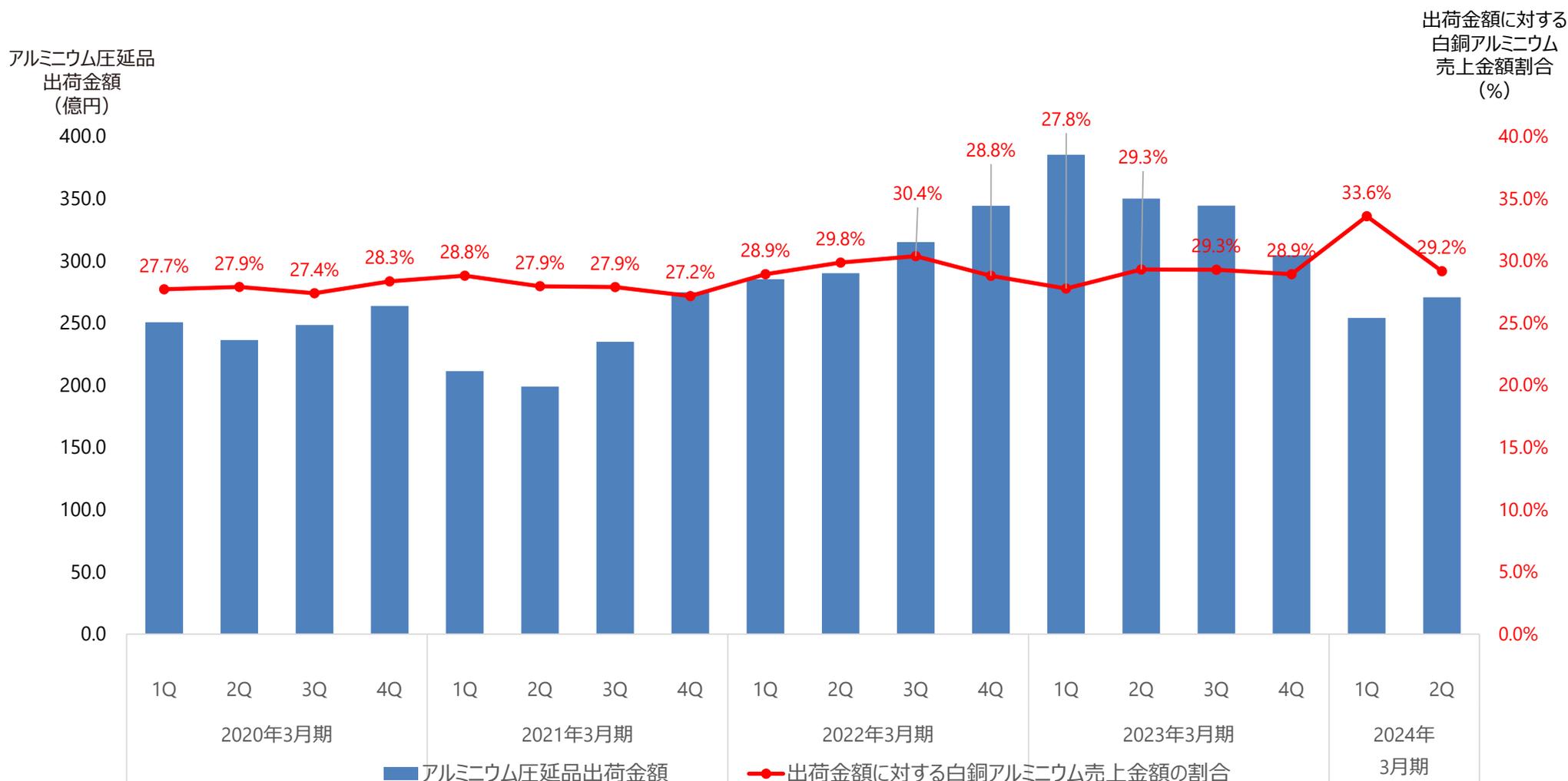
- 工作機械受注額は2022年3月をピークに下落の動きが継続。
- 前年2Q(7~9月)期間比で内需は23.0%、外需は12.1%受注額が減少。



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は30%前後で推移し、当社業界シェアは安定的に推移している。



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2024年3月期 業績予想

2024年3月期 第2四半期業績予想と実績との比較

2024年3月期第2四半期実績は、当社グループ業績に影響が大きい半導体製造装置業界で調整局面が継続しているものの、為替差益等の営業外収益が発生したことにより、経常利益は2024年3月期第2四半期業績予想より29百万円の増益となった。

(百万円)	2024年3月期 第2四半期予想	売上高 比率	2024年3月期 第2四半期実績	売上高 比率	達成率	2024年3月期 通期予想	進捗率
売上高	30,900	-	28,709	-	92.9%	63,200	45.4%
営業利益	1,240	4.7%	1,220	4.3%	98.4%	2,970	41.1%
経常利益	1,390	5.0%	1,419	4.9%	102.1%	3,180	44.6%
棚卸資産影響額 (△は損)	-	-	16	0.1%	-	-	-
為替差損益 (△ は損)	-	-	49	0.2%	-	-	-
経常利益 (棚卸資産・為替影 響を除く)	1,390	5.0%	1,354	4.7%	97.5%	3,180	42.6%
親会社株主に帰属す る当期純利益	940	3.4%	985	3.4%	104.8%	2,150	45.8%

※2024年3月期予想値は、第1四半期連結累計期間までの棚卸資産影響額を見込んでおります
1USD=135円、1CNY=19.69円、1THB=3.67円で算出（2023年5月発表時点）

通期業績予想および中期経営計画目標値

2024年3月期下半期以降には各施策による販売増加や業務改善による経費削減、および、IoTやDX、AI、電気自動車の推進など半導体需要が徐々に回復していくものと予想し、2024年3月期通期予想は据え置き。さらに、2025年3月期の中期経営計画目標値も達成見込み。

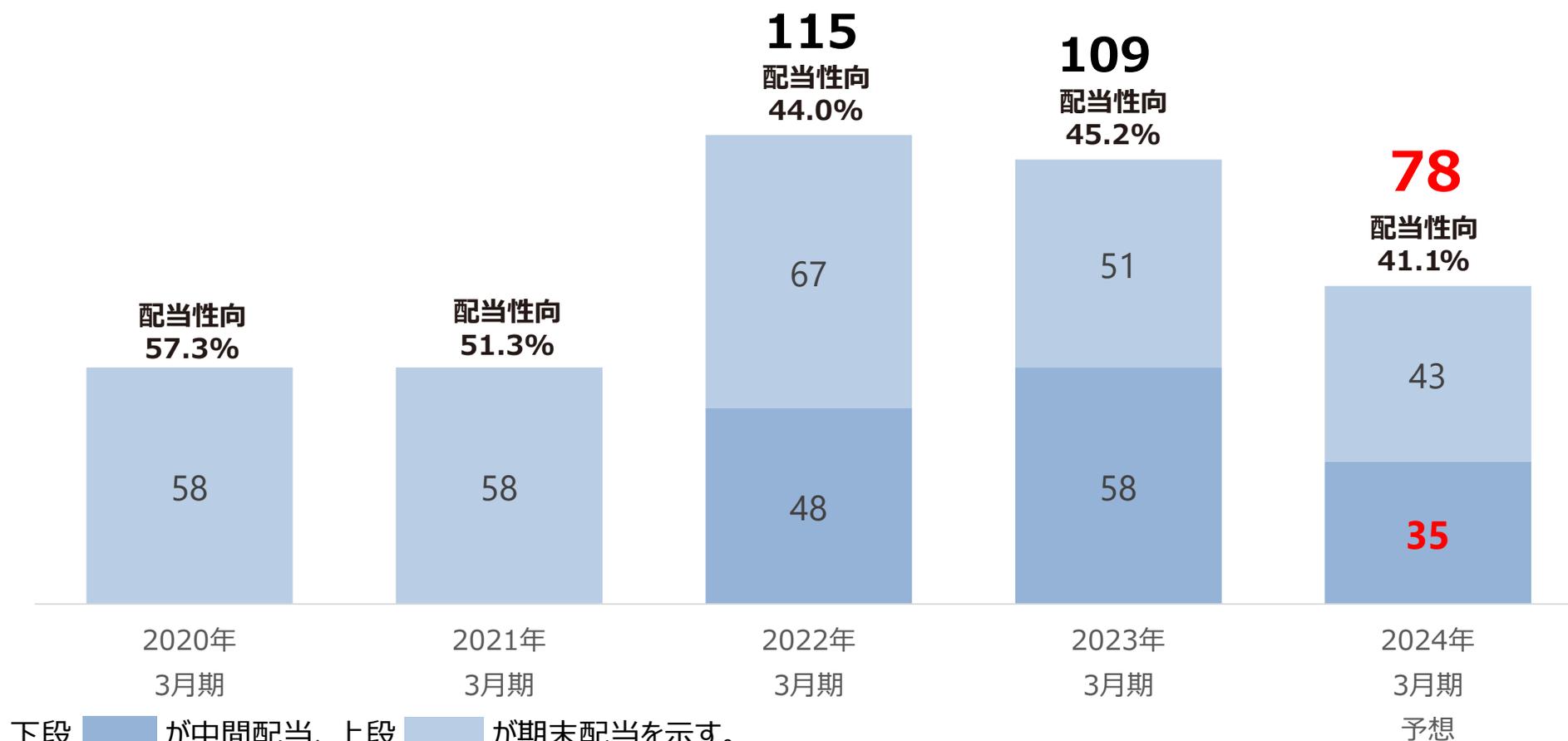
(百万円)	2024年3月期 第2四半期実績	売上高 比率	2024年3月期 通期予想	売上高 比率	対前連結 会計年度 増減率	中期経営計画 2024年3月期 目標値	中期経営計画 2025年3月期 目標値
売上高	28,709	-	63,200	-	2.6%	66,800	71,800
営業利益	1,220	4.3%	2,970	4.7%	△21.4%	-	-
経常利益	1,419	4.9%	3,180	5.0%	△20.3%	4,500	5,400
棚卸資産影響額 (△は損)	16	0.1%	-	-	-	-	-
為替差損益 (△は損)	49	0.2%	-	-	-	-	-
経常利益 (棚卸資産・為替 影響を除く)	1,354	4.7%	3,180	5.0%	△8.2%	-	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	985	3.4%	2,150	3.4%	△21.5%	-	-

※2024年3月期予想値は、第1四半期連結累計期間までの棚卸資産影響額を見込んでおります
1USD=135円、1CNY=19.69円、1THB=3.67円で算出（2023年5月発表時点）

株主還元策（配当）

- 2024年3月期第2四半期の四半期純利益が上期予想を上回ったため、中間配当は1株あたり35円と、期初予想より1円増配。
- 年間配当は78円と期初予想より1円増配の見込。

2024年3月期 配当予想



※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

中期経営計画達成に向けた取り組み (2023年3月期～2025年3月期)

中期経営計画の重点戦略方針

ダントツ戦略をベースに、2025年3月期までにビジネス進化と経営基盤の強化及びサステナビリティ経営の推進を図る。

経営課題と重点戦略方針



*詳細は2022年5月26日開示の「中期経営計画」をご参照ください

重点戦略の実施状況（1）

（1）白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

- 他社在庫品を中心に取扱アイテムを拡充。当社標準在庫品と他社在庫品を合わせ、9月末時点で約64,700アイテムがご利用可能。
2024年3月末までに、73,000アイテムまで増やす計画。

- 白銅ネットサービス登録件数は9月末時点で累計約11,500社に増加。
流通業者のその先のお客様がご利用可能なCSネットサービスを展開。

- 7月から白銅ネットサービスのオープン化を行い、一般消費者向けに展開。
ログイン不要での価格見積りが可能。

- 2023年10月以降機能を次々と拡充。

「金属3Dプリンター造形」の自動見積り・注文機能

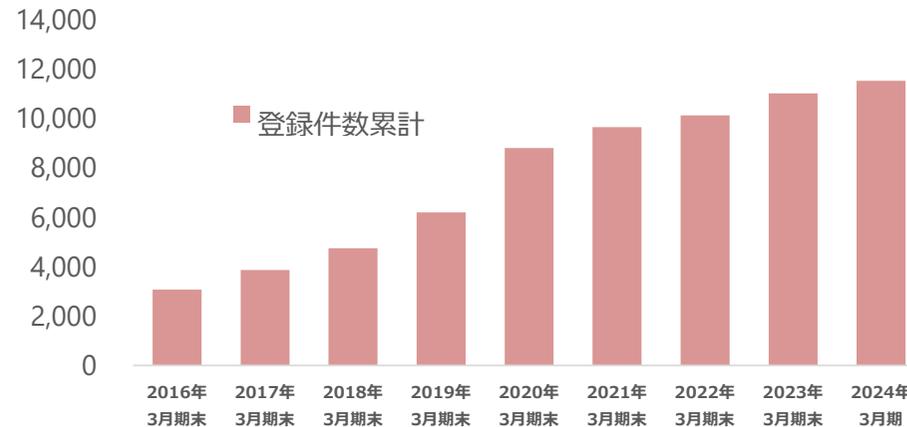
WEB上での穴あけなど図面加工の見積り・注文機能（追加予定）

図面CADデータをアップロードすることによる自動材料見積り・注文機能（追加予定）

【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移（累計）】



※CSネットサービスの登録件数を含む

あたらしい、を、素材から。



重点戦略の実施状況（2）

（2）成長領域の拡大・営業強化

①成長領域の拡大

◆ 航空・宇宙領域

- ・ 三重県伊賀市に新拠点（伊賀倉庫）設置し、ウォータージェット切断機・マシニング加工機・ワイヤーカット機などの加工設備を集約。

◆ 半導体領域

- ・ 半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築。

◆ 自動車領域

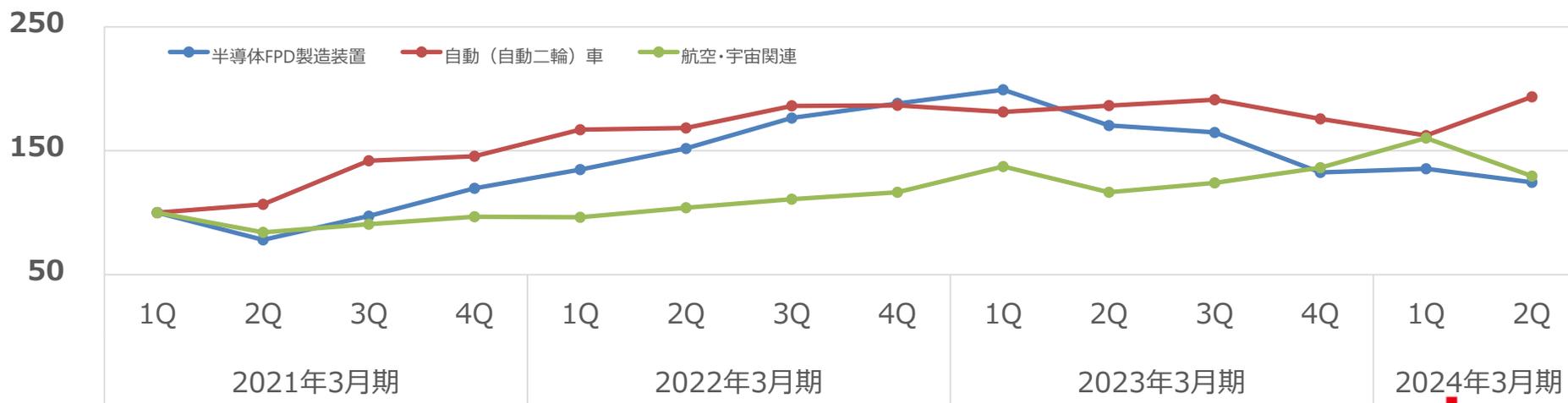
- ・ 3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得し、新規顧客に対する他商材の拡販を展開。

②成長領域の営業強化

◆ 販売促進課の発足

- ・ 2023年10月より販売促進課を新設し、インサイドセールス活動強化による総受注率の向上を目指す。
- ・ インサイドセールス機能移管による営業担当者の業務改善効果により、新規販売先への訪問を強化。

【成長領域の売上高指数の四半期推移】



※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移
2023 © Hakudo Co., Ltd. All rights reserved.

重点戦略の実施状況 (3)

(3) 海外事業の拡大

- 2023年3月に当社の100%子会社であるHakudo USA Inc.が米国カリフォルニア州「West Coast Aluminum & Stainless, LLC」の51%持分取得を行い子会社化し、100日間のPMI（事業統合）のフェーズが終了。
- 第2四半期終了時点での海外売上高比率では、中期経営計画3年目（2025年3月期）の目標値である白銅グループ海外売上高比率12%を前倒しで達成見込。

活動状況

◆ 販売品目の拡大

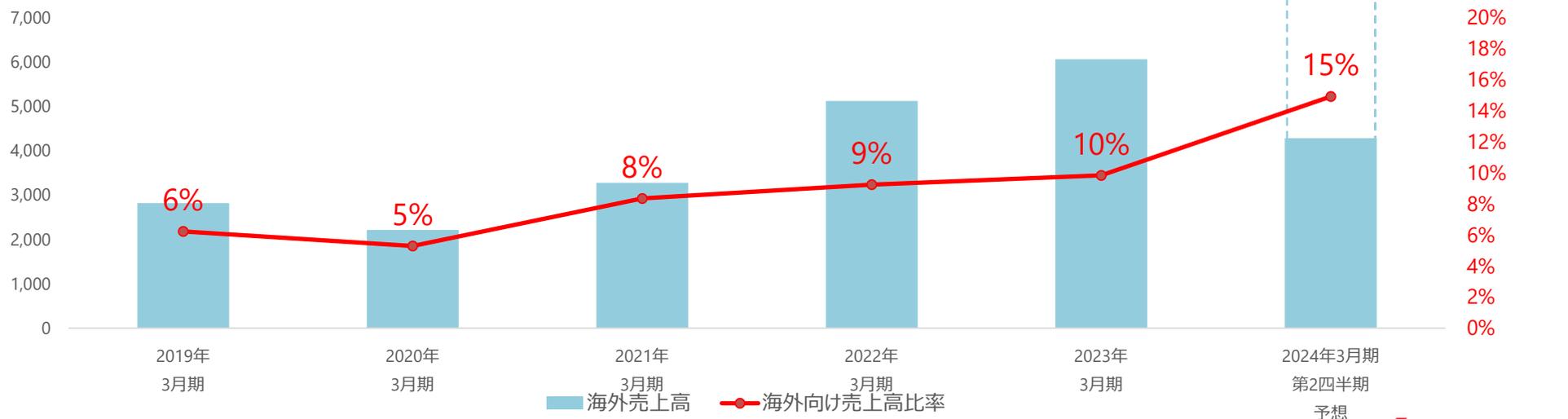
タイを中心に海外子会社でのEコマース事業の拡大を実施中。

米国子会社での非鉄金属の輸入卸売・加工事業の拡大を計画。またEコマース事業の準備を開始。

◆ 出資・提携先の検討

米国・韓国・台湾を中心に、更なる投資先の検討及び訪問、協議を実施中。

海外事業の売上高と海外売上高比率の推移



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

サステナビリティ経営の取組状況（1/3）



- ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現状までの取組み状況を下表に記載。取組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動中。
- 環境に配慮したECO商品のラインナップ拡充や拡販などにより販売が増大。ECO商品の売上高の一部を寄付することで社員の社会貢献意識も向上。
- 7月より7つ目の分科会となる「新商品・新サービス分科会」を発足。ESG・SDGs関連の新規事業および新商品開発を推進。

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期第2四半期取組状況
1.環境負荷軽減・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2020年度比で①2030年度までに42%削減、②2050年度までにカーボンニュートラル達成に向け、具体的な削減策に着手する	● 自社のCO ₂ 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 滋賀工場への太陽光パネル設置準備 ✓ FIT非化石証書の購入 ✓ CDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）の開示対応 ✓ 社用車における電気自動車の導入
	製造効率の改善	配送効率改善・産業廃棄物削減・スクラップ率低下などにより、天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献を実現する	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費電力量 ● 運賃逓減率 ● 廃棄物金額 ● 製造部門消耗品費 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 配送網の再構築による効率化など配送効率改善活動を実施 ✓ 設備の待機電力削減 ✓ 切削油リサイクルの施策を継続実施
	環境配慮製品の強化	環境負荷の少ない商品（ECO商品等）を安定供給することで、環境負荷に配慮した経営を推進し、社会貢献を行う	● ECO商品販売重量	✓ ECO商品拡販とECO商品ラインナップ拡充
2.責任あるサプライチェーンの構築	グリーン調達の促進	白銅独自のグリーン調達ガイドラインを、サプライヤーに遵守協力頂くことで、環境負荷に配慮した経営を推進し、社会貢献を行う	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数 ● グリーン調達率 	✓ 各取引先との覚書の取り交わし実施
	サプライヤーとの関係強化	サプライヤーと協力し、CO ₂ 削減に配慮した施策を行うことで、サプライチェーン全体におけるCO ₂ 削減を促進し、社会貢献を行う	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーンアルミ調達先発掘 ● リサイクルアルミ調達先発掘 	✓ CO ₂ 排出を抑えた電力を使用した原材料を基に製造された商品の導入準備
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を行うことで社会貢献を行う	● 自社における人権ポリシーの策定	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人権デューデリジェンスへの取組み開始 ✓ 人権ポリシーの制定準備

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

サステナビリティ経営の取組状況 (2/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期第2四半期取組状況
3.社会への取り組み	次世代への貢献	日本のものづくりの発展や人材育成を支援することで、次世代の技術の発展や人材育成に貢献する	● 産学協働検討案件数	✓ 大学の研究室に訪問。協働可能な新規案件を模索
	社会への貢献	持続可能な社会への貢献を行うことで、従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業になる	● 地域社会、団体への寄付	✓ 寄附型自動販売機の社内への設置拡充 ✓ 子供の未来を見据えた寄付活動の実施
4.人材への投資	従業員満足度向上	従業員満足度の向上により、従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションを高め、社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力を高める	● 離職率 ● 有給休暇取得率 ● 男性の育休取得率 ● 重大なヒヤリハット件数	✓ 子育て、介護が原因で退職される従業員の防止策の検討 ✓ 福利厚生充実と従業員への浸透活動 ✓ スポーツクラブ利用促進のためのサポート実施 ✓ 職場巡視によるヒヤリハットの未然防止
	ダイバーシティの促進	多様な人材を登用、活用することで組織の生産性や競争力を高める	● 女性従業員比率 ● 女性管理職比率 ● 外国籍管理職比率	✓ 女性管理職研修及び女性管理職育成研修の実施検討 ✓ 処遇面における公正性、透明性の確保 ✓ 成果を出した従業員が、さらに挑戦できるように適切かつ公平な仕組みの検討
	社員教育の拡充	業務上で必要な知識・スキルの提供。また知識やスキルを身に着ける為の機会を提供する	● 一人当たり教育費用 ● 研修受講比率	✓ 人事評価の見直し案検討

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

サステナビリティ経営の取組状況 (3/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期の活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期第2四半期取組状況
5.コーポレートガバナンス	違反者ゼロ	ゼロ・トーランスを目指し、教育を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス違反件数ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンプライアンス研修の実施 ✓ コンプライアンス理解度チェックの実施
	ポリシー遵守状況確認	各ポリシーの遵守 ※現状のポリシー及び基本方針は以下の通り ・プライバシーポリシー ・コーポレートガバナンス基本方針 ・サステナビリティ基本方針 ・ディスクロージャー基本方針 ・社内環境整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記ポリシー、方針の対応状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンプライアンス教育の実施 ✓ 情報セキュリティ教育の実施 ✓ 教育動画を配信し、全従業員の遵守度向上を推進
	事業リスク・災害への対応強化	事業リスク評価とBCP見直しを徹底。また、災害が発生しても訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みを作る	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク評価ポイント ● 防災訓練等の実施数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リスク評価ポイントの見直し ✓ 全社一斉の安否確認訓練実施
6. ESG/SDGs 経営委員会の社内浸透活動	社内浸透活動の推進	ESG/SDGsに関する啓蒙活動、イベントを行うことで、会社としてESG/SDGsに対する意識向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG/SDGsの従業員定着率(アンケートで調査予定) ● エピソードコンテストの累計件数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サンクスカードを導入し、従業員同士のコミュニケーションを推進 ✓ ESG/SDGs関連のポスター・書籍・動画の配布・配信 ✓ SDGsを絡めたビジネスプランの検討
7. ESG/SDGsに関連した新商品・新サービスの創出	商品・サービスの具現化	新商品・新サービスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 新商品・新サービスの導入件数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CO₂オフセット関連の商品・サービスを検討中

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

サステナビリティ経営の取り組み例

白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、自社農園による雇用創出など幅広い活動を行っています。

白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。神奈川県横浜市と埼玉県三郷市に拠点を設け、2023年10月現在、12名の従業員が在籍しており、葉物野菜をメインに約30種類を栽培しています。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配布しています。

※ 2023年10月末時点の情報を元に作成

スーパーミニマム チャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材も使用された2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が本気で制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ大戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信するプロジェクトです。

下町ボブスレーの材料は白銅が無償提供しており、製作されたボブスレーは2023年1月の世界選手権で19位の成績を残しました。

(写真提供：国際ボブスレー連盟IBSF)

ご清聴ありがとうございました

■ 白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。以下のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！



■ 本資料における注意事項

この資料には、2023年11月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

白銅株式会社 経営企画課
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp
ホームページ：www.hakudo.co.jp